

事業のタネシート

活動地域・団体名：箕川未来協議会

事業名称 1：古民家の一棟貸しホテル事業（訪問・宿泊）

あらすじ

箕川町は優れた立地・景観を持つ山間の集落です。集落内ある空家となっている古民家を改修し、一棟貸しホテルとして提供することで、社会と新しいつながりを作ります。人の行き来を生み出し、新たなサービスの可能性や、集落の未来を見出します。

ストーリー

箕川町は奥永源寺エリアにある山間の集落です。多くの山間の集落と同様、過疎高齢化が進み、空家が増えています。箕川町は山と川に囲まれた独特の地形・景観をしており、日本の山里の原風景を感じさせる雰囲気があります。地域にある古民家や景観を資源と捉え、これらを最大に生かした事業として、古民家を改修した一棟貸しホテル事業を起こします。価値の提供により社会と新しいつながりを作り、人の往来を生み出します。人の往来ができれば、山の幸を生かした商品や、自然体験などのサービスが提供できるようになります。また訪れる人の中から移住者が現れるかもしれません。何より、事業として成立させることで地域の自立を獲得します。国道や高速道路の整備により、奥永源寺エリアは名古屋から約1時間半、首都圏から約3時間半でアクセスできるようになっています。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域が、美しい景観が望める、人間らしい感動を味わえる里になる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資金の調達 ・浄化槽の設置 ・収益性が得られるスケールまで拡大できるかどうか ・広報、集客 ・オペレーションがどの様に見えるか
②課題	過疎高齢化が進み、年々空家が増えている	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域の資源（立地・景観）を最大に生かせる事業であるから。人の往来を生むから。収益性が高く自立した事業になることが望めるから。	
④地域資源	景観・古民家・立地・交通の便	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	改修した古民家をホテルやレンタルスペースとして貸し出します。お客さんは宿泊し、食事を楽しみ、地域の観光を楽しみます。	
⑥担い手（Who）	新たに法人を設立する。地域おこし協力隊。大工さん、工務店。地域事業者（クミノ工房・カネカ・小椋食品・箕川未来協議会）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	都市から人が訪れ、地域に経済効果が生まれる。人が来ると商品や体験などの消費行動が起こる。山里の生活が体験できるサービスで、人間の活動が、環境の保全や生態系保全に繋がることが体験でき、地域資源を適切に使うということについて気運が高まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・改修計画を相談する建築士 ・古民家の修繕ができる工務店 ・クラウドファンディングの経験者 ・事業に賛同・支援してくれる企業 ・改修作業と一緒に楽しむ仲間
⑧事業で生じる成果	地域への経済効果。都市との人の往来。人の往来は商品や体験などの消費行動につながる。訪れる人の中から移住者が現れるかもしれない。地域の資源を活用した事業を成立させることは、経済的な強さになり、またそのさきを続けていく自信になります。	

事業名称2：エコツーリズム事業（訪問・体験）

あらすじ

この地域を訪れた人が、地域や自然に馴染んでいくことをガイドする。地域の方から聞き書きした、暮らしや遊びの話題からツアーを作り、この地域を訪れた人に提供する。山のプログラム、川のプログラム、生活体験のプログラム、などがある。

ストーリー

街から自然の豊かな地域に来たとき、「では自由に、自然の中で過ごしてください」と言われても、ほとんどの人が入っていきなれないと思う。この地域で、何をどこまでやってよいのか見当がつかないだろうし、自然との距離感を掴むにも段階というものがある。地域で育った人たちは、親や仲間の振る舞いを見ながら、日々の暮らしで少しずつ学び、できることを広げていったことだと思う。この地域を訪れた人が、地域や自然に馴染んでいくことをガイドする。地域の方から聞き書きした、暮らしや遊びの話題からツアーを作り、この地域を訪れた人に提供する。プログラムを提供すると同時に、地域の人はゲストに迎えた人を通して、社会のニーズを掴む努力をし、地域の見せ方、体験の届け方を磨いていくのである。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	あたたかい人に会える里・学びがある里・訪れやすい里・子どもたちで賑わう里	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの運営はエネルギーが要る ・誰がメインで実施するか だれがそれをサブでフォローできるか ・完全お客さんではなく、対話ができるお客さんに来てほしい ・継続できるようにすること
②課題	プログラム化・継続性・安全面の確保	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	訪れる人、泊まる人の、過ごす時間の価値を高めたい。地域の人と正式な接点があると、地域を訪れる人はほっとする。それは、地域を何度も訪れる動機になる。	
④地域資源	地域の自然すべて（山・川・茶畑・集落・樹木・枯れ枝・落ち葉・野草）	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	春：山菜を取る・お茶を摘む・釣りをする 夏：水遊び・虫取り 秋・冬：山歩き・木の実を拾う・炭焼き 冬：雪遊び・炭焼き 通年：写真コンテスト・焚き火	
⑥担い手（Who）	箕川未来協議会。地域事業者。地域おこし協力隊。観光協会。漁業組合。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域の人が地域を捉え直す機会となる。都市の人がエコツアーに申し込むと、地域経済のプラスとなる。人間の活動が、環境の保全や生態系保全に繋がることで体験でき、地域資源を適切に使うということについて気運が高まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインができる人 ・発信の上手い人 ・街の人の視点のある人 ・まちづくりネット的な ・企業（顧客として）
⑧事業で生じる成果	都市と地域との交流になる。 プログラムを実施することで、年長者の体験を若者に継承できる。 コミュニケーションやアイデア創出の機会となる。	

事業名称 3 : 山の幸の商品化 (商品開発・商品販売)		
あらすじ		
<p>地域にある山野草や木の実生で稼ぐ！調達が容易で、訪れる人にとって価値が高いものが無いかと考えたときに、地域にある山野草や木の実生が目に入った。</p> <p>地域の自然から容易に持続的に得られるものを商品化する。</p>		
ストーリー		
<p>人が訪れ、体験したら、次は、その地域からのものを持って帰りたい、というのが人情であろう。しかし実際に、新しい商品を開発すること、そしてそれを継続することは大変である。調達が容易で、訪れる人にとって価値が高いものが無いかと考えたときに、地域にある山野草や木の実生が目に入った。地域には植物に詳しい人がいて、どの季節に、どこにどんな植物があるか等、知識が豊富である。また、山で生える樹木の実生は、背の高い樹木の影になり、殆どの場合大きく生育することができない。他所から来て、地域にあるそれらを取って帰るのは、地域の自然へダメージを与えることにもなりえる。モラル的な問題もある。地域の人は、地域の自然を見ているし、持続的に利用するやり方を知っている。逆に自然を利用することが、環境の向上に繋がることも期待できる。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域の資源を使う・都市と連携する	<ul style="list-style-type: none"> ・継続性 ・価値を高く売る技術 ・その後の生育性
②課題	本当に売れるかどうか。 売れたものが枯れずに育ってくれるか。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	人が訪れ、体験したら、次は、その地域からのものを持って帰りたいというのが人情。 地域の自然で稼ぎ、地域に投資する。地域の人だからこそ持続的な利用ができる。	
④地域資源	山野草・実生苗	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	山野草や山引苗をポットにいれて道の駅で販売する。協議会の活動や、地域の資源を生かした取り組みなどの説明カードをつけてPRし、ファンを獲得する。	
⑥担い手 (Who)	地域住人・協議会メンバー。販売場所として道の駅。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域の人が、地域の自然に働きかける機会になる。二次的な自然は人の利用があるほうが良い。都市の人が商品を購入すると、地域経済のプラスとなる。商品の説明書きで情報を発信する。都市の人が後日、地域にアプローチするきっかけとなり、交流が生まれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインができる人 ・発信の上手い人 ・植物の生態に詳しい人
⑧事業で生じる成果	商品が売れると地域の人と喜びを共有できる。売上を地域の活動に投資できる。 地域の資源を価値にする目線が育つ。山野草の無断採取の抑止力となる。	